

水や器物の着色について

Q.浴槽の水が青く見える

○原因

水中で生じる光の散乱によるものです。

水には赤や黄色の光を吸収し、青や緑の光は通過させる性質があるため、浴槽など大きな容器に水をためた場合に、水が青く見えることがあるということです。特に白系の浴槽の場合に顕著に見られます。

○安全性

もともとの水がもっている性質のため、問題ありません。

Q.浴槽、洗面所、タオル、容器などの一部が青くなる

○原因

給湯管や湯沸器などに使われている銅管から溶け出したわずかな銅は、石けんや湯あかに含まれる脂肪酸と反応してできるものです。

銅管内面が新しい時は溶け出しやすく、水を長時間通すことで酸化銅の被膜が形成されると溶出はほとんど無くなります。一般的には数週間から数ヶ月で被膜が形成されるといわれています。

○対策

石けんや湯あかが残らないようにこまめに手入れすることです。

○安全性

銅の水質基準値は1.0mg/L以下で、過去の知見より給湯管や湯沸器を通った湯で水質基準値を超えることはありませんでした。また銅イオンは人体に必要な成分の一つで、銅そのものや銅さびについても毒性はないので、問題ありません。

Q.赤水や濁水が出る

○原因

古い給水管をご使用によるものや配水管等の布設替工事によるものなどがあります。

給水管や配水管等は一部鉄を使用しており、鉄は腐食しやすく、水中でも徐々に錆びていき、その錆が赤水や濁水になって出てきます。

○対策

応急的に、白いコップ等に水を取って明らかに赤いときは、暫く水を流して下さい。

その際の水はバケツなどにとり、飲用以外に使用してください。

○安全性

鉄分は人体への吸収率が低く、大部分が排出されるため、少量の赤水を誤って飲用しても特に心配ありません。

Q.ポットの内面が黒色になる

○原因

湯沸器や給湯器などに使用されている銅管から溶け出したわずかの銅が、ポットの内面に徐々に付着し、黒色に見えるようになったものと考えられます。

○対策

よく洗い、こまめに手入れすることです。

○安全性

銅の水質基準値は 1.0mg/L 以下で、過去の知見より給湯管や湯沸器を通った湯で水質基準値を超えることはありませんでした。また銅は人体に必要な成分の一つで、銅そのものや銅さびについても毒性はないので、問題ありません。

Q.アルミニウム製の鍋やヤカンの内面が黒くなる

○原因

アルミニウム合金と水道水を 90℃以上で加熱したときに水の溶存成分と反応し、黒色の腐食酸化物が合金表面にできることなどによるものです。

アルマイト加工（人工的に、アルミニウムの表面に生成した薄い酸化皮膜を厚くするための表面処理）をされた製品は黒変が起りません。しかし、ナイロンたわしなどによる洗浄や煮沸の繰り返しによりアルマイト被膜がなくなっていることがあります。

○対策

アルマイト被膜を保護することです。具体的には、硬いたわしやクレンザーなどで強くこすったりせず柔らかいスポンジなどで洗うこと、また残り湯に繰り返し水を継ぎ足し沸騰や空焚きをしないことです。

○安全性

黒色被膜は無害で使用にあたり、問題はありません。

Q.白い水、白いお湯が出る。浴槽のお湯の中に水を入れると白くなる(少し時間がたてば消える場合)

○原因

空気（気泡）です。

蛇口から水道水をいきおいよく出すと蛇口の内部が負圧となり、蛇口の上部から空気を吸い込んで、細かな気泡となります。また給湯用の蛇口から出るお湯にも同様の現象が発生します。

○安全性

空気なので問題ありません。

Q.容器に水を入れておくと、水面のへりが薄茶色になる

○原因

ミネラル分です。

水道水中には適度に水の味を良くするミネラル分や鉄分が含まれています。水が蒸発するときには水分のみが蒸発するため、容器に水を入れておくと、端にはミネラル分が付着して残ります。これが繰り返されて白くなったり、鉄分が若干多くなると薄茶色をなったりします。

○対策

こまめに拭き取りや洗浄することです。

○安全性

ミネラル分のため、問題ありません。